

第 2 回 SPERC スマートエネルギー工学講演会

この度、岩手大学ソフトパス工学総合研究センター(SPERC)では、京都大学 野平俊之 先生をお迎えして講演会を開催します。電気化学をご専門とされる野平先生は、長年、熔融塩技術を基盤とした電解技術および新型電池のご研究で目覚ましい研究成果を上げておられます。それらの業績が認められ、2006年に電気化学会進歩賞、2009年に科学技術分野の文部科学大臣表彰若手科学者賞を受賞されました。

講演会では、野平先生の多方面に展開されているご研究の一端を拝聴できる絶好の機会です。エネルギー科学等の分野に関心をお持ちの教職員、学部学生、大学院生をはじめ、本学関係者以外のどなたでも参加できます。お誘い合わせの上、是非ともご参加下さい。

なお、本講演会は第 35 回 INS エネルギー変換技術研究会講演会および第 2 回岩手大学電気化学セミナーとの共催事業になります。

記

主 催	岩手大学ソフトパス工学総合研究センター・ 安全・安心分野・スマートエネルギー工学グループ	
共 催	岩手ネットワークシステム (INS) エネルギー変換技術研究会	
協 賛	日本化学会東北支部、電気化学会東北支部、 表面技術協会東北支部	
日 時	2013年4月1日(月) 14時45分-15時45分	
場 所	岩手大学工学部キャンパス内 復興祈念 銀河ホール 〒020-8551 岩手県盛岡市上田 4-3-5	
講 演 者	野平 俊之 准教授 (研究室 HP: http://www.echem.energy.kyoto-u.ac.jp/) 京都大学大学院エネルギー科学研究科・エネルギー基礎科学専攻・エネルギー化学分野	
題 目	新たな太陽電池用シリコン製造法を目指して：熔融塩中におけるシリカの直接電解還元	
内 容	これまで太陽電池用シリコンは、半導体用シリコンと類似の製法で生産されてきましたが、今後のさらなる太陽電池の普及を考えると、より安価で生産性の高い製造法の開発が望まれています。講演者らは、850°C程度の熔融 CaCl ₂ 中においてシリカ (SiO ₂) がシリコンへ電解還元できることを見出しました。絶縁体であるシリカが電解還元されることは学術的に興味深いだけでなく、新たなシリコン製造法としても期待できます。本講演では、初期の学術的検討からプロセスの連続化を目指した最近の検討まで、一連の研究の経緯と成果についてご紹介します。	
Key words	太陽電池用シリコン、熔融塩、電解還元、シリカ	
参 加 費	無 料 (教職員、学生、一般)	
問い合わせ先	岩手大学 大学院工学研究科フロンティア材料機能工学専攻 教授 吉澤正人 (スマートエネルギー工学グループ・研究代表者) 電話：019-621-6354, E-mail: yoshizawa@iwate-u.ac.jp	

